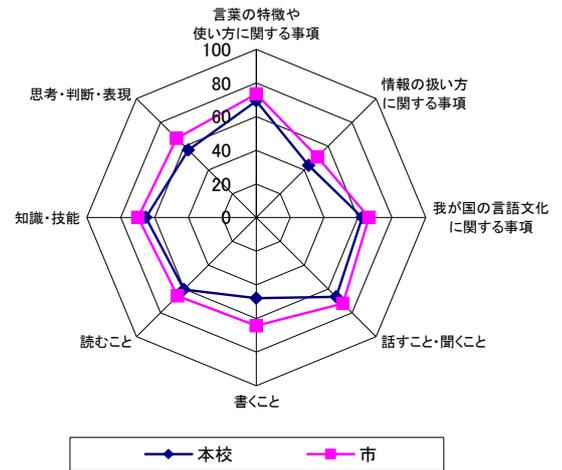


# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.3	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	43.8	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	62.5	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	66.7	72.3	73.7
	書くこと	47.9	64.3	66.6
	読むこと	60.4	65.8	64.9
	知識・技能	65.2	69.8	70.8
観点別	思考・判断・表現	56.7	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

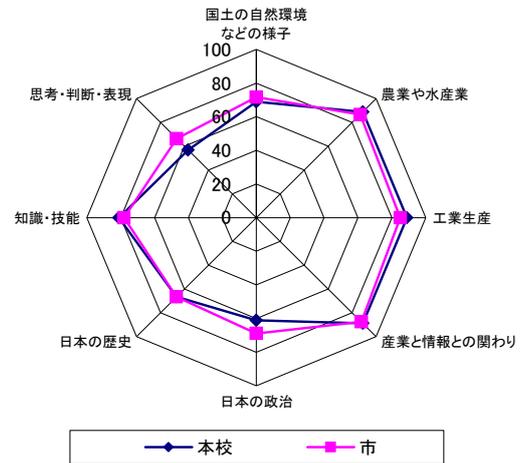
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を4.2ポイント下回った。</li> <li>○漢字の読みに関しては、3問中2問で100%の正答率で、全問において市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●言葉の学習では、敬語の正しい使い方についての設問の正答率が市の平均正答率を9.7ポイント下回っている。</li> </ul>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の学習については、学年の漢字を繰り返し練習し、確実に習得させるとともに、下の学年の漢字についても、自主学習などを利用して復習させていく。</li> <li>・言葉の学習では、敬語の正しい使い方について、主語を意識させることで理解を深め、繰り返し復習を積んでいく。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を7.2ポイント下回った。</li> <li>○目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、市の平均正答率とほぼ同等だった。</li> <li>●情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の発達段階に応じた資料について読み取る活動を取り入れ、他教科とも関連を図りながら、資料活用能力を高めていく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を4ポイント下回った。</li> <li>●和語、漢語、外来語について理解する問題では、市の平均正答率を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、言語文化に対する関心を高めるような話題を提供したり、朝の学習や家庭学習(宿題・自主学習)等で取り組ませたりし、日本語や日本文化についての見識を高める内容を奨励したりする。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を5.6ポイント下回った。</li> <li>○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、市の平均正答率を3.6ポイント上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年の発達段階に応じた話合いの学習形態を取り入れ、相手の考えを自分の考えと比べながら聞いたり、根拠を明らかにして自分の意見を伝える体験を積んでいく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を16.4ポイント下回った。</li> <li>○目的や意図に応じて、書き表し方を工夫する問題では、市の平均正答率を4.5ポイント上回っている。</li> <li>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、市の平均正答率と比べ大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の時間だけでなく、他教科や行事などの機会を生かし、文章を書くことに慣れさせる。また、文字や段落数を指定するなど、条件に適した作文指導を学年の発達段階に応じて積極的に取り入れていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を5.4ポイント下回った。</li> <li>○説明文の内容を読み取り、叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均正答率を2.9ポイント上回っている。</li> <li>●物語の内容を読み取り、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題では、市の平均正答率を12.7ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読む時に、時間や場所、様子を表すキーワードを見つけながら読み進めていくよう指導していく。</li> <li>・朝の読書や読み聞かせなどを利用して、読書活動を推進していくことで、読むことへの関心を高める。さらに、読書の幅を広げるようにいろいろな分野の本を紹介していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	68.9	71.6	69.6
	農業や水産業	88.9	86.7	83.7
	工業生産	88.9	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	88.9	87.7	77.4
	日本の政治	61.1	68.9	71.7
	日本の歴史	66.7	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.0	78.0	76.7
	思考・判断・表現	56.9	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

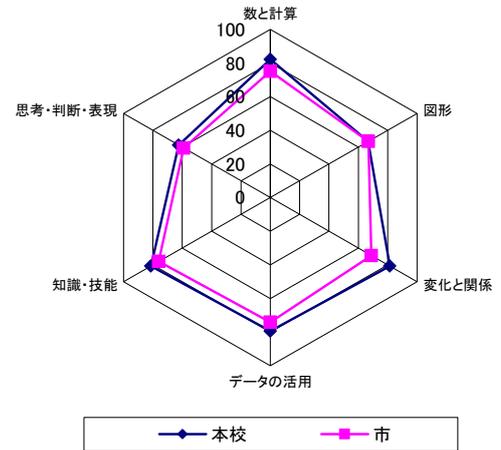
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を2.7ポイント下回った。</li> <li>○オーストラリアの位置や国旗についての問題では、正答率が88.9%であり、市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●日本周辺の海洋名を答える問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の中の国土や自然環境について、授業の中で名称を覚えるだけでなく、地図や地球儀を活用しながら、場所を確認して指導を行っていく。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を2.2ポイント上回った。</li> <li>○米の生産の工程についての問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断する問題では、正答率77.8%と市の平均正答率を12.7ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや地図を活用し、2軸の折れ線グラフの関連性や、資料の示す意味などを読み取る時間を、計画的に設けていく。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を3.9ポイント上回った。</li> <li>○自動車の製造工程についての問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●工業製品の分類についての問題では、正答率が88.9%で市の平均正答率を3.3ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの作業工程を丁寧に説明したり、流れを捉えられるようにしたりする。また、児童が身近な工業製品のことを考えたり、実際に工場見学に行ったりするなど、体験的な学習を取り入れていく。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を1.2ポイント上回った。</li> <li>○メディアの特徴についての問題は、正答率100%と高い水準であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真や映像資料を活用したり、関係を表や図でまとめたりし、生活における様々なメディアの特徴を捉えられるようにする。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を7.8ポイント下回った。</li> <li>●内閣の働きについての問題では、正答率22.2%で市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の政治について、役割と仕事の流れを関係図にまとめたり、児童の身近な問題と結び付けたりして、理解を深められるようにする。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均と同程度であった。</li> <li>○源氏物語や鉄砲の伝来についての問題では、正答率が100%と高い水準であった。</li> <li>●戦いについての理解を基に、資料を判断したり、理由を記述したりする問題では、正答率が11.1%で市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史上の出来事を覚えるだけでなく、それがどのような目的で行われたのか、どのような効果があったのかを抑えながら授業を展開していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	82.2	75.1	75.8
	図形	66.7	66.8	68.3
	変化と関係	81.5	68.8	65.0
	データの活用	79.4	74.1	63.6
観点別	知識・技能	81.3	76.1	75.8
	思考・判断・表現	62.5	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

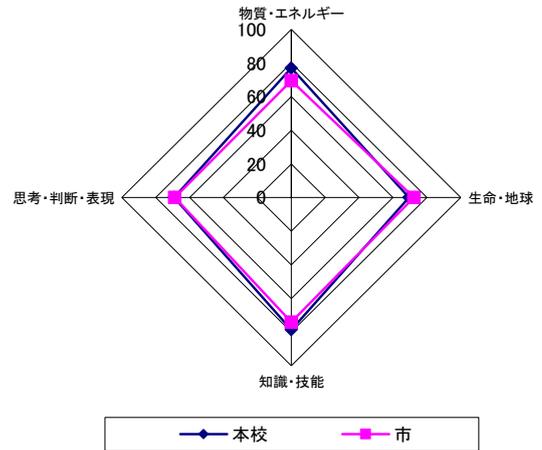
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○市の平均を7.1ポイント上回った。</p> <p>○分数の計算問題では、ほとんどの問題で正答率が100%と高い水準であった。</p> <p>○一方の文字から他方の文字の値を求める問題では、正答率が77.8%と市の平均正答率を7.9ポイント上回っている。</p> <p>●何倍かを求める小数倍の文章問題では、正答率が55.6%と、市の平均正答率を大きく下回っている。</p>	<p>・基礎的な計算能力を定着させるために、朝の学習や家庭学習等を活用し、引き続き全校体制で復習問題への取組を継続していく。</p> <p>・小数の問題に苦手意識をもつ児童が多いため、今後も計算問題に取り組むとともに、小数を用いた文章問題に意図的に取り組ませていく。</p>
図形	<p>○市の平均と同程度であった。</p> <p>○合同な三角形の作図問題では、正答率が100%と高い水準であった。</p> <p>○展開図から見取り図の辺の長さを読み取る問題では、正答率が100%と高い水準であった。</p> <p>●点対称な図形の対称の中心から対応2つの点までの長さについて理解する問題では、市の平均正答率を大きく下回っている。</p>	<p>・線対称、点対称の内容が定着できるように、それぞれの性質について復習するとともに、作図の問題に取り組む、理解を深めていく。</p> <p>・面積や体積の公式について、なぜその公式になるのか、言葉や図を用いて説明を行い、理解を深めていく。</p>
変化と関係	<p>○市の平均を12.7ポイント上回った。</p> <p>○速さと道のりから時間を求める問題では、正答率が100%と高い水準であった。</p> <p>○基準量と比較量から割合を求める問題では、正答率が66.7%と市の平均正答率を12.9ポイント上回っている。</p>	<p>・百分率や割合について、身の回りにある題材をもとにした活用問題に引き続き取り組む。</p> <p>・速さや人口密度などの問題に繰り返し取り組ませることで、内容の定着を図る。</p>
データの活用	<p>○市の平均を5.3ポイント上回った。</p> <p>○円グラフを読み取る問題では、正答率が100%と高い水準であった。</p> <p>○平均を利用して考える問題では、正答率が55.6%と市の平均正答率を14ポイント上回っている。</p> <p>●最頻値を求める問題では、正答率が66.7%と市の平均正答率を13.9ポイント下回っている。</p>	<p>・平均値、中央値、最頻値といった代表値について、その意味と求め方を正しく理解し、様々な視点からデータを読み取ることができるよう復習を行っていく。</p> <p>・引き続き、自分の考えや友達の考えを説明する授業展開を単元の中に位置付ける。</p>

# 宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	77.0	69.5	65.2
	生命・地球	69.4	72.3	70.1
観点別	知識・技能	78.6	74.0	70.7
	思考・判断・表現	69.1	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市の平均を7.5ポイント上回った。</li> <li>○二酸化炭素とちっ素を区別する方法を指摘できる正答率は、市の平均を12.6ポイント上回り、正答率は100%と高い水準であった。</li> <li>●実験の結果から、コイルの巻き数を増やすと電磁石の強さが大きくなることを記述する問題の正答率は、市の正答率を12.3ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的事項の定着を図るとともに、文章を読み比べたり、図を見比べて答えを導き出したりするような練習問題にも取り組みませ、発展的な課題も充実させていく。</li> <li>・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的な指導を徹底する。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市の平均を2.9ポイント下回った。</li> <li>○消化管についての問題では、本校の正答率は88.9%で、市の平均正答率を18.9ポイント上回っている。</li> <li>○流れる水の量が増えたときの水の速さの変わり方を理解する問題では、市の平均正答率を5.8ポイント上回り、正答率は100%と高い水準であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に捉えにくい現象等は、映像などの視聴覚教材を有効活用するとともに、日常生活の中で見られる事象を提示したり、身近なものなどに置き換えたりして理解の定着を図る。</li> <li>・基本的な用語などは確実に覚えていけるよう、継続的な指導を徹底する。</li> </ul>

## 宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う児童の育成 ～生活科・総合的な学習の時間の学習活動を通して～	・児童の主体的な学びを引きおこす課題設定の工夫  ・対話的な学び合いを取り入れた授業の展開	・「生活科・総合的な学習の時間が好きですか」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、91.7%から69.2%であった。他の教科と比べると、どの学年も低い傾向が見られた。  ・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は、学年によって差が見られたが、92.9%から55.6%であった。下学年は8割を超えていた。  ・「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は92.9%から55.6%であった。学年が上がるにつれて、低くなる傾向が見られた。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○苦手とする領域を意識した指導の充実…課題が見られた領域については、問題の解き直しを行い、全員で正答を確かめる場をつくる。(国語では、書く領域、算数では、図形において正答率が低い。)

○思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫…授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定する。(資料の読み取りや記述式の問題で、正答率が低い。)

今年度、6年生は、4月の全国学力・学習状況調査と12月の学習内容定着度調査共に、市の正答率を上回る領域が多い結果となった。特に、算数においては、知識・技能の観点で正答率は約8割となった。基礎基本の定着を目指し、個に応じた指導を充実させてきた結果であると考えられる。しかし、「勉強が好きですか」「自分から進んで勉強していますか」のアンケート結果では、6年生がどの学年よりも低く33.3%、55.6%という結果となった。学校課題でもある、主体的に学ぶ児童の育成において、まだまだ成果が見られていない。次年度も、児童自らが課題を設定し、見通しをもって学習に取り組めるような単元構成を工夫し、主体的・対話的で深い学びにつながるような指導を充実させていきたい。